

『小児歯科からのアピール：生後6カ月に乳歯が生えてきたら 小児歯科に通い始めましょう』

九州大学大学院歯学研究院

口腔保健推進学講座小児口腔医学分野(小児歯科) 野 中 和 明

小児歯科医師としての私の23年の歳月の中で確実に予測できていたことは、歯科医師数の増加を踏まえ需要(患者数)と供給(歯科医師数)のアンバランスによる歯科医療界を取り巻く諸条件の悪化でした。適切なバランス確保のために、供給減をはかる抜本的大改革が断行されなかったことは残念です。

日本経済の不況と急激過ぎる少子化時代の到来による児童数の激減は、予測の範疇を多少超えるものでした。少子化が抱える本質的問題は、将来の日本社会の繁栄を築く世代の絶対数が少なく社会衰退につながることです。ここは大人の欲を抑え、未来を背負った数少ない子ども達への行政上の手厚い育成加護が必要です。

小児歯科外来における患児数減少の心配にどう対応していくのか。我々小児歯科医師は、妊婦や母親予備軍の若い世代にも小児歯科の存在を強く印象づける努力を続けましょう。そして『子供の頭髪が伸びたら散髪屋へ行くように、生後6カ月に乳歯が生えてきたら小児歯科医院に通い始めましょう』とアピールしながら、虫歯から子どもを守ってくれるいつも優しい小児歯科の歯医者さんでいたいものです。

一学会員としては、九州近辺の各都市で一般歯科と同時に小児歯科も標榜しておられる開業医の先生に、小児歯科学会員として一緒に研鑽を積まれることを希望します。社会に対して正直な歯科医師としての姿勢を守り、看板と中身が同じであることを維持する努力は専門職の生き方としてごく基本的なことです。開業医の先生が中核となり運営されている小児歯科学会九州地方会は、歯科医師会のネットワークを活用して開業医の先生を学会員に積極的に取り込む好機ではないでしょうか。ご批評をお願い申し上げます。

温故知新

北九州市開業 橋 本 敏 昭

私が大学の助手として残った昭和54年頃、学会は春と秋2回の全国大会であった。その後私が昭和57年に北九州市において小児歯科医院を開業した後、地方会が全国6つのブロックに分けて組織された。昭和63年に私は地方会幹事となり、それ以来今日まで15年間に渡り地方会の役員としてお手伝いをさせて頂きました。平成4年には副会長に任命され、平成12年に監事に、そして現在副会長に再任され、責任の重さを痛感しております。初期の地方会は九州5大学がリーダーシップを取り、活発に講演や発表がなされておりました。また、地域活性化の為にと、九州各地で開催され、私は北九州市での第17回の大会長をおおせつかり四苦八苦した思い出があります。それでも地域に